

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 べにばな )

事業所番号	0670100940		
法人名	(株)東北医療福祉システムズ		
事業所名	やすらぎ苑山形		
所在地	山形県山形市東山形1丁目4-12		
自己評価作成日	令和元年10月1日	開設年月日	平成 13年 1月 4日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日体操や歩行運動を日課にし、歌やゲームといったレクリエーション活動、苑外での活動(ドライブ、散歩、買物、外気浴等)、食器拭きや洗濯物たたみ等の家事活動等を通して活気のある生活が送れるよう支援させて頂いております。また、お花見会やお祭り会等の行事を通してボランティアによる歌や踊り演奏などを披露して頂き、利用者様に楽しんでもらえるよう取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 元年 11月 20日	評価結果決定日	令和 元年 12月 6日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の公園を真向いに子供達の遊ぶ姿や季節が感じられる環境の中、信頼できる管理者・職員達のサポートのもと、体操や歩行練習、家事活動など機能の維持に努めながら安心した毎日を過ごしています。地域とのつきあひも深まり、芋煮会を兼ねた地区の防災訓練や文化祭への参加など地元ならではの交流を楽しんでいます。また、散歩や買い物、ドライブなど希望に沿った個別支援にも力を入れ利用者と共に家族等からも喜ばれています。事業所の花見会や千歳祭りでは家族会が集まり、美味しい物を食べながら和やかに懇談しコミュニケーションがとれる関係づくりに努め、日々の楽しみ・心のうおい・健康を求めて「生き甲斐づくり」を応援している事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に理念を唱和している。全職員が共有し、日々の業務に従事している。	法人理念の他にやすらぎ苑山形の目標やユニット毎の理念も掲げ、「生き甲斐づくり」を応援する取り組みを実践している。個別支援に力を入れて機能低下を防ぐ様々な運動や希望を取り入れた活動で暮らしをサポートしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の際は回覧等で呼びかけ、可能な限り参加して頂いている。地区の防災訓練も兼ねた芋煮会に参加したり、資源回収に協力している。	町内会とのつきあいも円滑に行われ、今年は地区の文化祭に皆で作った作品と共に参加している。地区の防災訓練は目の前の公園で実施され、天気が良ければ全員で参加し住民の方々とその後の芋煮会での交流も楽しんでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症についての理解を広めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、利用者の現状や活動を報告。様々な質問や意見をもらい、サービスの向上に活かしている。	町内会長はじめ民生委員など地域の方の参加も多く家族会や利用者代表も交えて「主な活動・事故等の状況・次期の活動予定」を議題に意見をもらっている。避難訓練と同日に開催する事もあり、感想や反省点などを次回に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員に様々な時間で訪問してもらっている。報告書は回覧し、情報を共有している。	運営にあたり疑問が生じた際は、行政の担当部署に速やかに相談して適切なアドバイスもらっている。地域包括支援センターからは運営推進会議に出席してもらい、取り組みへの助言や入居に関する情報等で協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	夜間以外は玄関は施錠せず、センサーと常に所在確認で対応している。居室内で転倒、転落の恐れのある利用者は、家族の了解を得てセンサーを設置したり、ベッド柵を使用して対応している。	「事業所内での研修や職員間で気づき話し合える関係づくり」を目標に掲げ、「私の振り返り18ヶ条」を心に留め接遇にあたっている。帰宅願望がある新しく入居した方には、傍につきそい傾聴に努め一緒に出かけるなどしてチームワークで支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士がカンファレンスや日々の生活の中で、身体の変化や内出血等の情報を共有、確認して防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	なかなか学ぶ機会が持てないでいる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が入所時に家族へ十分に説明し同意を得ている。入所後の状態変更等で説明の必要があった場合には、その都度説明し理解を得られるようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、面会等で家族が気兼ねなく話す事が出来るよう心掛けている。また、利用者の思いを察する努力をし、運営に反映させられるよう努めている。	家族等からは面会時やケアプランの説明時に話を聞いている。また些細な事案も電話で相談するなど管理者が窓口となって対応している。家族会があり事業所の花見会や千歳祭りで利用者・家族が一緒になって楽しい一日を過ごし信頼関係を深めている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とは随時、また、月に一回の会議の時には代表者も交え意見交換の場を設けている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者を通じて勤務状況を把握し、会議や個人面談等で職員の思いや意見を聞く機会を設けている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が個々の経験年数等に応じた研修への参加を促し研修後の報告を会議等で行ったり、社内研修も実施し全員の知識・技術の向上に努めている。	全職員1年に1回は外部研修へと取り組んでおり、受講後は報告会をして周知を図っている。内部研修は時節に合った内容で専門職や外部講師のもと開催し、処遇改善や資格取得への応援もあり職員のレベルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	
					次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会主催の研修や訪問研修で同業者との情報交換に努め、参加者から全職員に報告し回覧する事で質の向上を図っている。		グループホーム連絡協議会やブロック会議等に管理者やケアマネジャーが参加して、同業者と交流し情報交換しながらサービスの質向上を図っている。また交換研修への積極的な参加は職員の意識向上に繋がりケアに活かされている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で本人の様子を知り、関係者や家族から情報を出来る限り収集して本人が安心出来るように努めている。		/	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始段階から十分な説明を行い、家族の要望や思いを受け止め、安心して相談できるような関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望者の要望を聞き、必要であれば他施設の紹介や案内を含めた対応を行うようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話や家事活動の中で、お互い学び合う気持ちで共に過ごし、支え合う関係づくりに努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や面会の際、本人と家族の時間も大切にしながら、情報交換や思いを共有し共に支えていく関係を築けるようにしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親せきや知人の面会、外出があり、馴染みの関係が継続できるよう家族と協力して支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の心身の状態を見守りながら、利用者同士の関わりが円滑になるよう配慮・声掛けをし支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先の病院や施設へ主に管理者が訪問したりすることで、出来る限り関係を断ち切らないように努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から本人の思いを汲みとれるように働きかけている。表出が困難な場合には行動や反応、家族からの情報を元に把握に努めている。	担当職員に拘らず全員で利用者の思いや意向の把握に取り組んでいる。「私の姿と気持ち」シート作成には皆の意見が反映され、毎日の関わりの中での気づきを大切に、全体の申し送りやユニット毎の日誌、介護記録等で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話しや、家族の協力を得ながら情報提供をしてもらっている。まとめた書類は常に確認出来るように個人記録に綴じている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り、個人記録や伝言ノート等を使い把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者がモニタリングを行い、カンファレンス時に全員で見直し介護計画を作成している。現状の変化等があった場合には、その都度話し合い検討している。	利用者の良い所を見出し伸ばすことを一番に、毎日の活動や運動を通して出来ることが続けられるようプランを作成している。定期的にモニタリング(観察)シートに基づいてユニット毎検討会を開き、必要に応じて都度見直しも行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やチェック表等を活用して情報を共有し、実践や介護計画の見直しに繋げている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの店への買物や散歩を楽しんだり、ボランティアの方々との交流を通して楽しく暮らせる様に連携を取って支援している。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診を2週間に一回実施し現状の報告や相談をおこなっている。また、体調変化の際は受診支援を行い、家族の協力を得ながら適切な医療を受けられるように支援している。	利用開始時に、かかりつけ医を協力医に変更して、月2回の往診時に看護師より日頃の状態を医師に報告し連携を図っている。他科受診に関しては家族等の付き添いで受診し、結果等については、伝言ノートや看護師からの申し送りを徹底し共有している。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がおり、異変や異常時は状態を報告し指示を受け対応している。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は主に管理者が家族や病院関係者との情報交換を密に行い、早期に退院できるように努め、また、安心して治療が出来るように支援している。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医と連携を取りながら取り組んでいる。家族等と話し合い、必要な方には終末期同意書を取り交わしている。	重度化や終末期の支援について、本人・家族等に事業所で出来る事を説明し、必要な方からは終末期同意書ももらっている。重度化してきた時は家族等と話し合い、往診医・看護師と連携を取りながら、最善の介護が出来るよう全員で話し合いを持ち、協力して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急法の社内研修を実施し、全職員が受けた。実践力については夜間帯などに不安がある。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者職員全員参加の避難訓練を実施している。地域の防災訓練にも参加している。	利用者・職員全員が参加して想定を変えた避難訓練を行っている。運営推進会議と同日に行い出席者に訓練の様子、手順等も見てもらい、もしもの時には協力が得られるよう取り組んでいる。	実際に事が起きれば人手が足りない事が予想される。近隣の方々に訓練に参加してもらう事を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	難聴の方には大声になってしまう事もあるが、個人の誇りやプライバシーを損ねないような言葉遣いや対応に配慮している。気になる対応がみられた場合には職員間で気をつけあうようにしている。	利用者のこれまでの生活歴を知る事で、誇りやプライドを傷つける事が無いよう、特にトイレ介助時にはプライバシーに配慮して支援している。日頃の対応で気付いた時には職員も互いに注意し合い、尊厳を守る言葉がけをしている。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話等で思いを口にしやすいような環境づくりに努め、意思決定や希望を表せるように支援をしている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や休憩時間等、一人一人のペースに合わせて本人の希望も尊重しながら支援に努めているが、入浴等、施設の決まりを優先してしまう事もある。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣替えをおこない、行事や外出時にはおしゃれできるよう配慮している。時にマニキュアをや化粧をして気分の活性化に努めている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人のペースに合わせた食事が出来るように心掛けている。野菜の皮むきや食器拭き等を出来る方に手伝ってもらっている。	職員が作った献立で利用者にも出来る事を手伝ってもらい、美味しい食事を作っている。ユニット間で主食と副食を交替しながら作る事もしている。月1度ラーメン屋さんが出張して作ってもらう日もあり楽しみな日になっている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮して個人に合わせた食事量を提供している。飲み込む力にあわせて刻み食やトロミ剤を使用している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず声掛けで実施している。必要な方は介助し、義歯を夜間預かり洗浄剤を使用して清潔保持に努めている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人一人の排泄パターンや状態を把握したうえでケアを行っている。	排泄パターンをよく知る事で、排便の有無・夜間排尿等を察知して支援している。羞恥心に配慮し、出来るだけトイレで排泄する事を目標に介助している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行い、献立には食物繊維、乳製品を取り入れている。極度に排便が見られない方には薬剤を使用している。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日中の決められた時間の中で対応しているが、好みの温度や順番で入れるように支援している。	入浴は朝の身体状況を確認して1対1の介助で行っている。湯温の好みや順番などにも気配りして、よもやま話をしながらゆっくり入ってもらっている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の体調や状態を見ながら休息できるように声掛けしている。季節に合わせた室温や寝具の調整をし、気持ち良く眠れるように支援している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬の説明書を綴じて常に確認出来るようにしている。処方の変更があった場合には専用のファイルに記録し確認出来るようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気が良い日等は外出や散歩、ドライブ等で気分転換できるように支援している。各個人の楽しみごとに対応出来るように努めている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や気分に沿った外出支援を行っている。年一回の日帰り旅行は御家族も参加して実施している。	日常的に食材の買い物と一緒に行き、散歩やドライブなど外に出る機会が多い。希望に沿って衣料品や化粧品を買いに出かけるなどの個別の外出もしている。新緑・紅葉狩りは行事として必ず出かけ、帰りには回転寿司で食事をして満足し、また次の出かける日を楽しみにしている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者が施設管理となっている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話には本人が話せるように取り次いでいる。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは居心地の良い温度や明るさに保ち、季節ごとに装飾を変えている。写真も定期的に変えながら掲示している。向かいが公園のため四季折々の景観を楽しめる。	リビングから公園が見渡せ、庭が広がっている様に見える、季節を感じながら利用者は過ごしている。1日の大半をここで過ごし、テレビの前のソファは好んで寄り合う場所となり、職員は利用者が孤立しないよう見守り、一人ひとりに合った活動を見つけ支援している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士の席を近づけたり、各個人の気に入りの場所を把握して対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との写真をボードに貼ったり、本人が使用していた物(座イス・時計等)を置いたりして自分の場所と感じてもらえるようにしている。	居室は利用者の使っていた物を持って来てもらい、自分らしく暮らせる部屋作りをしている。寝具はレンタルを使用し定期的に交換して(汚れた時はすぐ替える)、気持ち良い暮しと夜間の見守りで安心して過ごしている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札を設置し、トイレの表示は見やすくしている。玄関や洗面所にイスを用意し、自立支援に努めている。		